

# 人欄に学ぶ

## ～見えない心を想像しよう～

神戸大学附属中等教育学校 校長 船寄 俊雄  
教諭 立花 佳澄

### 1. はじめに

本校は 2014 年度の N I E 実践校の指定を受け、5 月から 8 月までの 4 カ月間、新聞購読の機会を頂いた。購読期間中は図書室に閲覧場所を設け、司書教諭との連携を図りながら、本校生徒と職員の自由閲覧および貸し出しを促進した。

本校生徒も含め、中学生は、人間関係形成の仕方が未熟で多感な時期を過ごしている。友人同士の言葉のやり取りの中での軽率な発言で、無自覚に傷つけ合うことがある。特に、インターネットを使ったソーシャルメディア<sup>1</sup>の発達した現代では、ソーシャル・ネットワーク<sup>2</sup>・サービス<sup>2</sup>(以後 SNS と表す)を使って、顔の見えない相手とやり取りをして人間関係を築く場面が多くある。自分と相手のそれぞれの物差しで考えたことの齟齬によるトラブルが起こったり、スピードの速いコミュニケーションを強いられて軽率な発言をしていることに気が付かず、お互いが無自覚に傷つけ合ったりしている。ソーシャルメディアの発達した現代を生きていくためには、SNS を生活から切り離すのではなく、正しく共存することが望まれる。

今回全 6 社の新聞購読に当たり、各社紙面に共通して存在する「人欄」に着目した。身近な相手を取材し、その相手に関する「人欄」を記事にすることで、言葉の向こう側にある相手の心を想像し、さらに言葉を吟味して発

信することの意義を理解させたいと考えた。

国語の学習指導要領における「話すこと・聞くこと」の目標には、目的や場面に応じ、構成や話し手の意図を考えながら聞いたり、相手の立場を尊重して話したり聞いたりして考えを広げようとする事が挙げられる。また「書くこと」の目標には、目的や意図に応じて構成を考え、的確に書く力を身に付けることが挙げられる。

### 2. 実践内容

#### (1) 講演を聞く

「人欄」に学ぶ 取材・執筆の極意

(山崎整 兵庫県 N I E 推進協議会事務局長)

兵庫県 N I E 推進協議会事務局長の山崎氏による講義と実践を出張授業でお願いした。人を取材して記事を書くためには、取材相手を傷つけないように尊重して聞き出す力が必要である。プロの取材の仕方や執筆の仕方を直接聞き、取材の実践を見ることは、学習者にとって、他者の心に配慮して聞き書きをする手本を見る貴重な機会となった。

## インタビュー極意学ぶ

神大付属中の生徒120人



山崎整さんからインタビューの手法を学ぶ生徒ら＝神戸大学附属中等教育学校

<sup>1</sup> 誰もが参加できる広範的な情報発信技術を用いて、社会的相互性を通じて広がっていくように設計されたメディアである。双方向のコミュニケーションができることが特長である。(ソーシャルメディア - Wikipedia より一部抜粋)

<sup>2</sup> インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク(ソーシャル・ネットワーク)を構築するサービスのことである。(ソーシャル・ネットワーク・サービス - Wikipedia より一部抜粋)

#### (2) 記事の分析と執筆

「人欄」記事の全体構成と展開の仕方を考えさせるため、実際の新聞の「人欄」を切り抜き、段落分けと各段落の内容分析を行わせた。さらに、講義の中で取材を受けた教員に

ついで、「人欄」と同じ形式で記事を書かせた。同じ対象のもので、書き手によって伝え方が異なり、それによって与える印象が異なることを実感させるのを狙いとした。

〈ワークシートの実例〉

①新聞記事を切り抜き、要素を分析する

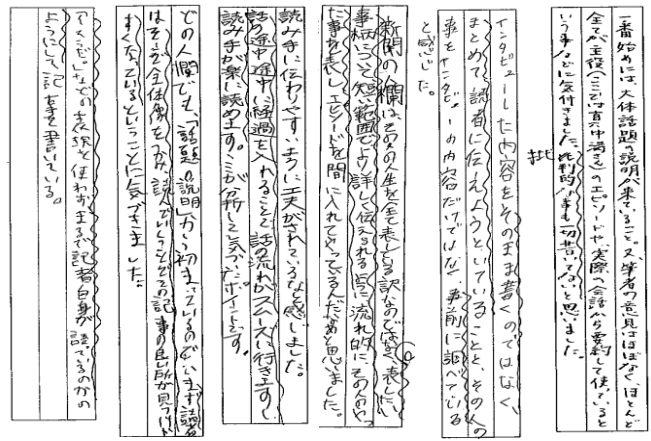
「人欄の分析」に新聞記事を貼り、内容を分析する。

◆手順

- その一 記事を貼る
- その二 記事に形式段落番号を書き込む
- その三 形式段落ごとに、それぞれの内容の要素を分析して書く(左記の「◆注意」を参照)
- その四 記事を読んだ感想を書く
- その五 分析して気づいたことを書く

◆注意

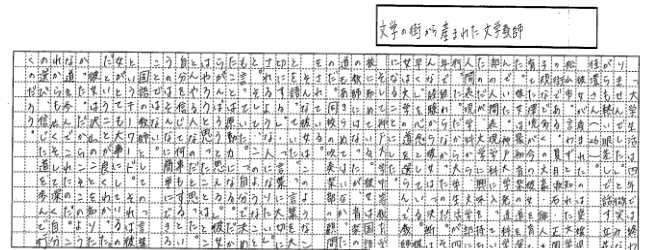
- ・どの新聞社の、いつの日付のものでもよい。
- ・山崎先生のお話の内容と資料を参考にして書く。



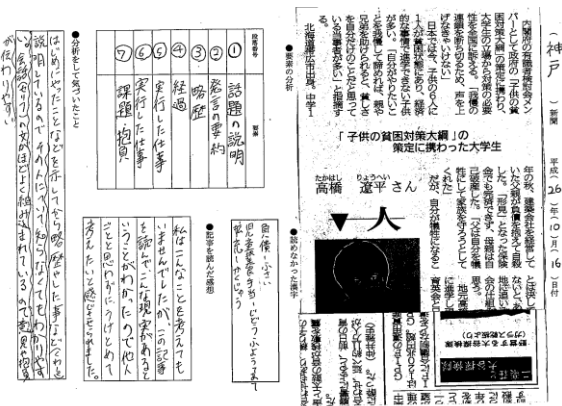
②インタビューを受けた立花先生についての取材メモを基にして、「人欄」の記事を書く

◆注意

- ・配布プリントと、授業でメモ書きしたノートを参照して書く。
- ・13字×50行=650字。適切ところで段落を分ける。
- ・小見出しは自由に考え、枠内に書く。



人生の「決断」



(3) 取材

本校は2015年度に明石校舎と統合し、同学年生徒が約80人増加した。統合の前に明石校舎に出向き、ほぼ初対面の同学年生徒に対して取材をした。その際、話を聞くときの態度を考えさせるために相づちやうなずきを交えて和やかな雰囲気を作ること、話の内容を正確に聞き取るためにメモを取りながら聞くこと、話そうとする事柄についての考え・気持ちにふさわしい語句を選んで話をさせることに留意させた。

(次ページに事後アンケート結果掲載)



#### (4) 執筆と推敲

取材後、取材メモから目的に応じて適切な題材を選ばせ、相手を尊重した好意的な表現を意識しながら記事を書かせた。その後、相手の意に反していないかを確認するため、取材相手に読んでもらった。自分と他者のものの見方・考え方の違いに気づかせるため、添削を受けて、「伝えようとしたけれども伝わってなかったところ」を整理させた。表現の仕方を吟味して、記事を推敲させ、整理した推敲メモを基に、再度記事を書かせた。

#### (5) 説明と相互評価

相手の心を想像して吟味した内容を整理するため、記事をどのように推敲したかを説明させ、完成した記事を発表させた。「取材相手を尊重して記事が書けているか」に着目して相互評価をさせ、特に良いものをクラスで紹介した。

発表を聞いて、発表者が推敲を経て変化させたところに気づき、相手を尊重した好意的な表現を見つけて記述させた。

### 3. まとめ

今回の学習では、講演で聞いた「人欄」の書き方を生かして、取材相手との会話を通して自分が感じた魅力を引き出し、読み手に伝えることを意識させた。さらに取材相手から記事の添削を受け、「伝えようとしたけれども伝わってなかったこと」に気づくことで、ものの見方・考え方の違い、意思疎通の難しさ、言葉を吟味する必要性を考えさせた。また、相手の指摘を受け止め改善しようとする行為は、他者を尊重することであり、今後のより良い人間関係の形成につながるだろう。

新聞に書かれた記事の裏には、取材者と対象者との丁寧な言葉のやりとりが存在した。言葉を吟味して伝えることの大切さを学べる貴重な学習となつ

